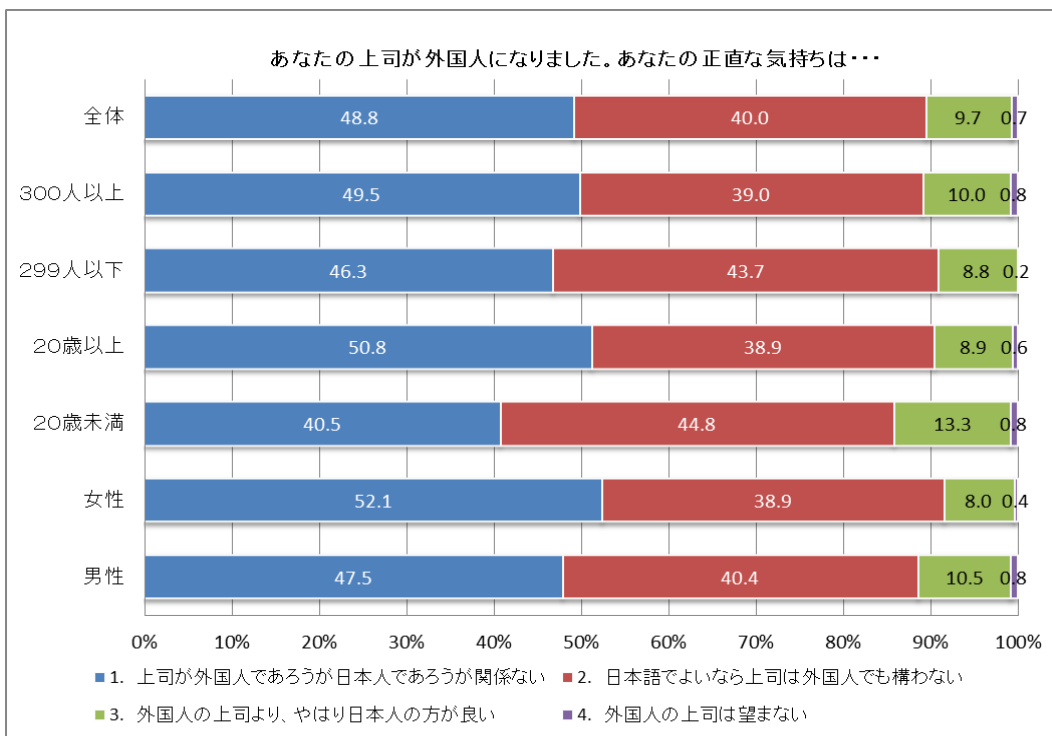
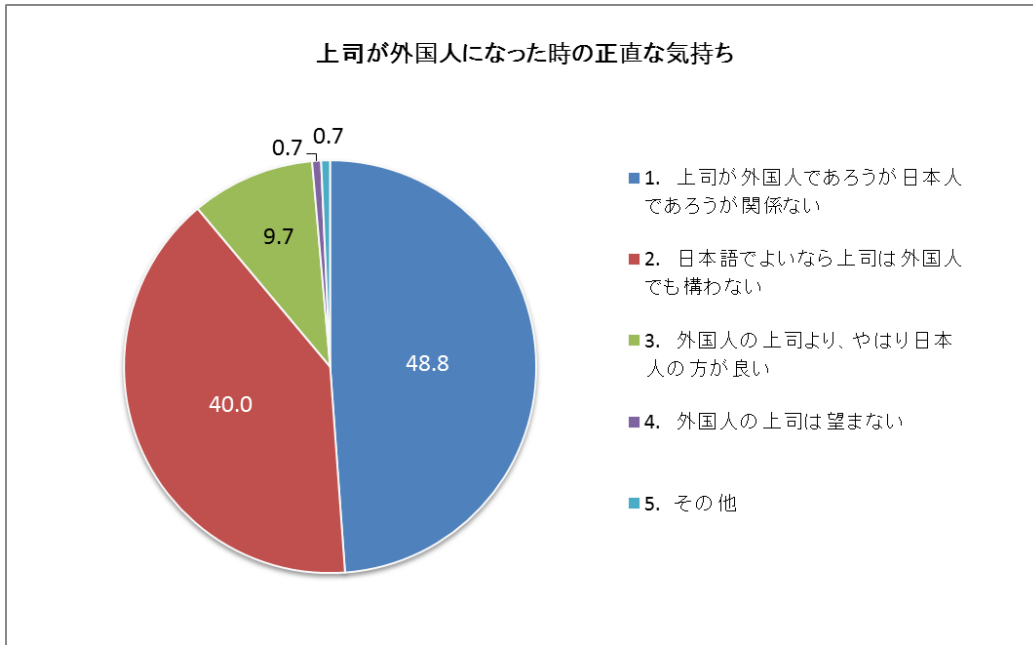


**1. 【新設質問】 上司が外国人であろうが日本人であろうが関係ない 48.8%**  
**日本語でよいなら上司は外国人でも構わない 40.0%**

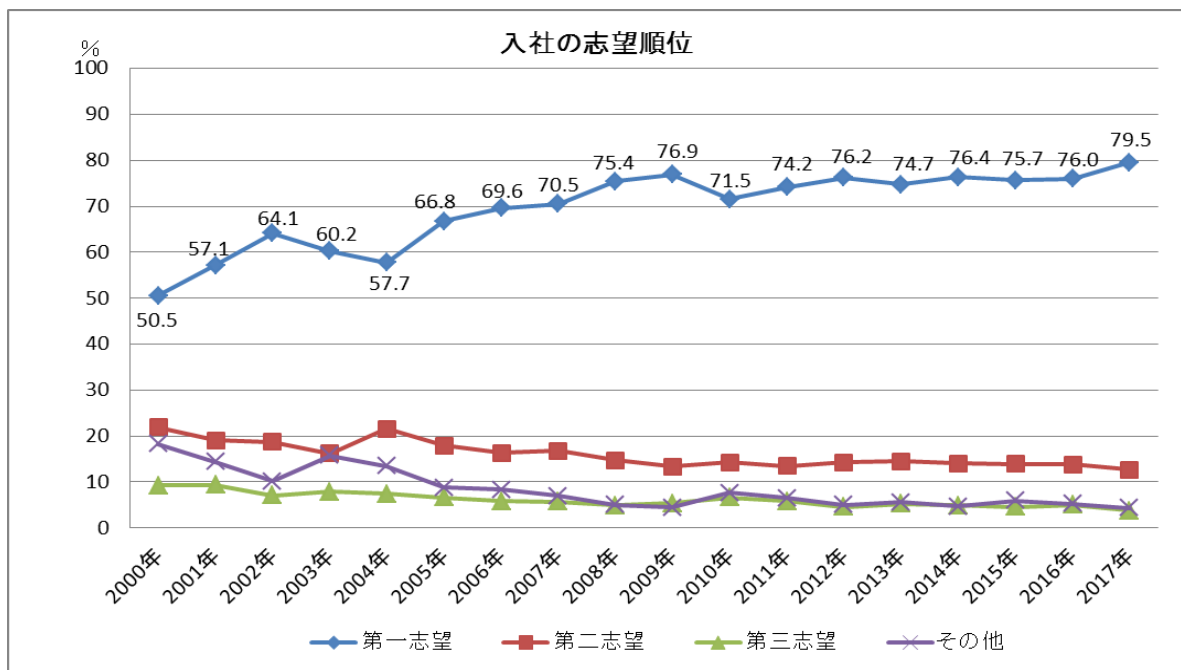
設問Q5. (f)「あなたの上司が外国人になりました。あなたの正直な気持ちは…」との問いに対し、「上司が外国人であろうが日本人であろうが関係ない」と答えた割合は 48.8%、「日本語でよいなら上司は外国人でも構わない」との回答は 40.0%となった。一方で「外国人の上司より、やはり日本人のほうがよい」9.7%、「外国人の上司は望まない」0.7%と、「上司は日本人が良い」とするのは少数派となった。

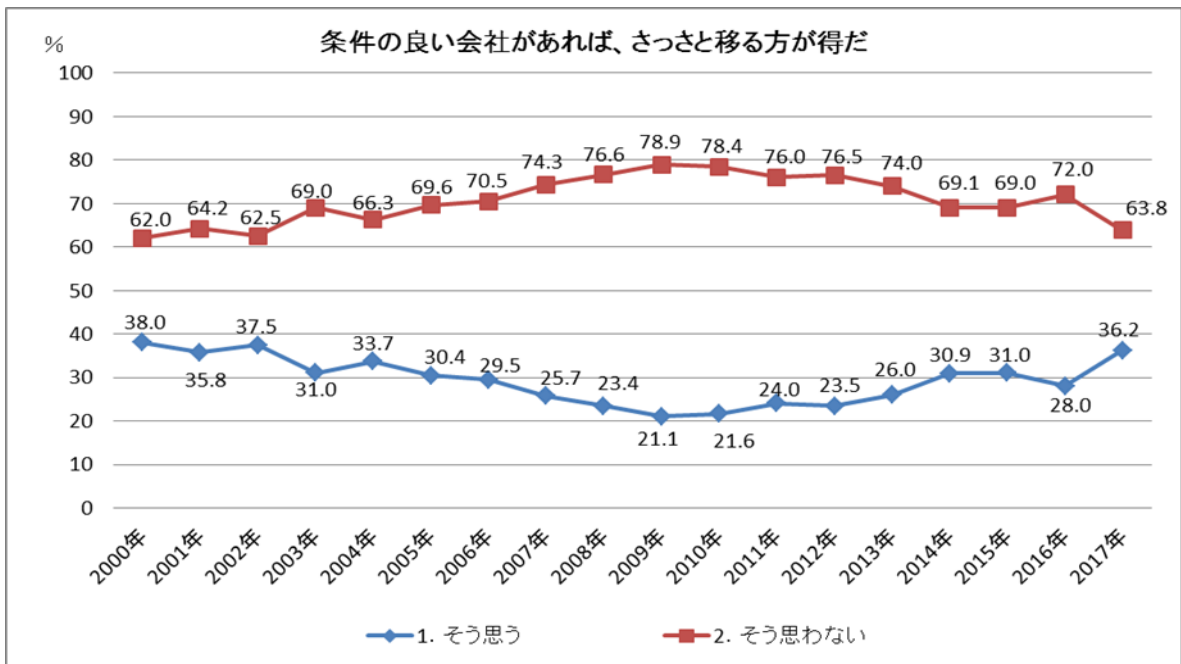


## 2. 第一志望での入社が2000年代で最高の79.5%を記録

「条件の良い会社があれば、さっさと移る方が得だ」も思う割合も昨年度比8.2%増加の36.2%となり、就職氷河期の最高水準38.0%（2000年）に近づく

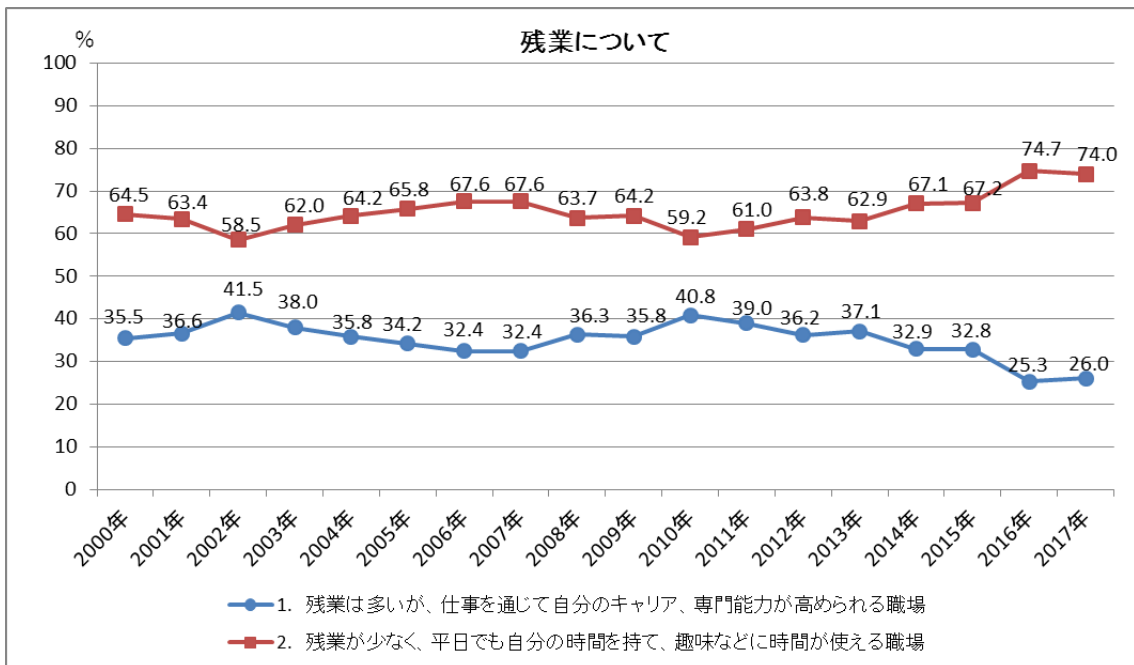
設問Q4. 志望順位をみると、第一志望での入社が79.5%と2000年代で最高を記録した。昨年と比較しても3.5%の増加となった。その一方、設問Q7. (e)「条件の良い会社があれば、さっさと移る方が得だ」との問いに対し、「そう思う」と答えた割合は36.2%となり、昨年度比で8.2%増加し就職氷河期の最高水準である38.0%（2000年）に近づいた。「そう思わない」と回答した割合は63.8%である。過去5年間で最高は31.0%（2015年）であり、これを大きく上回る数値となった。

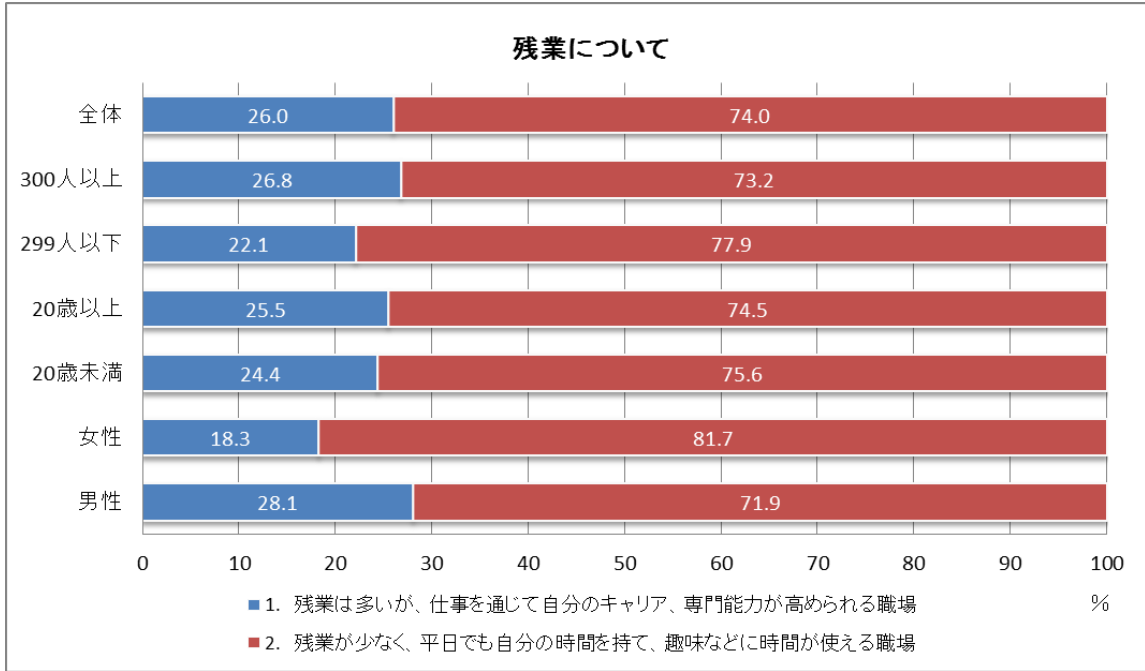




### 3. 残業が少なく、自分の時間が持てる職場がよい 74.0%と高い水準を維持

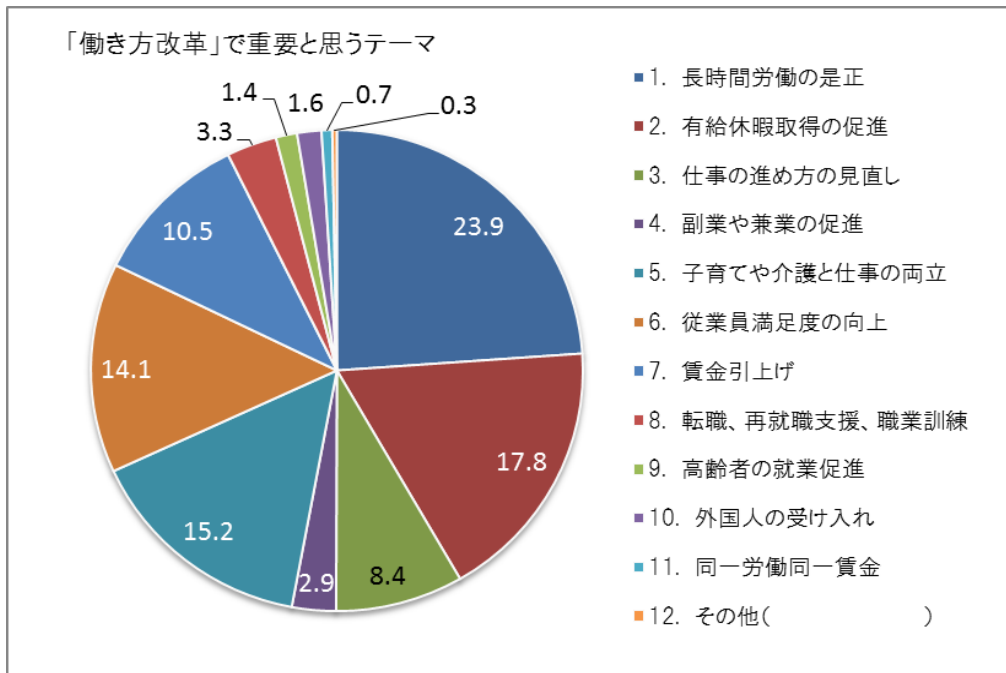
設問Q6. (d)「残業は多いが、仕事を通じて自分のキャリア、専門能力が高められる職場」と「残業が少なく、平日でも自分の時間が持て、趣味などに時間が使える職場」のどちらかを好むかとの問いには、「残業が少なく、自分の時間を持てる職場」を好むとした割合が74.0%と、昨年比で0.7%減少したものの、2017年も高い水準を維持した。

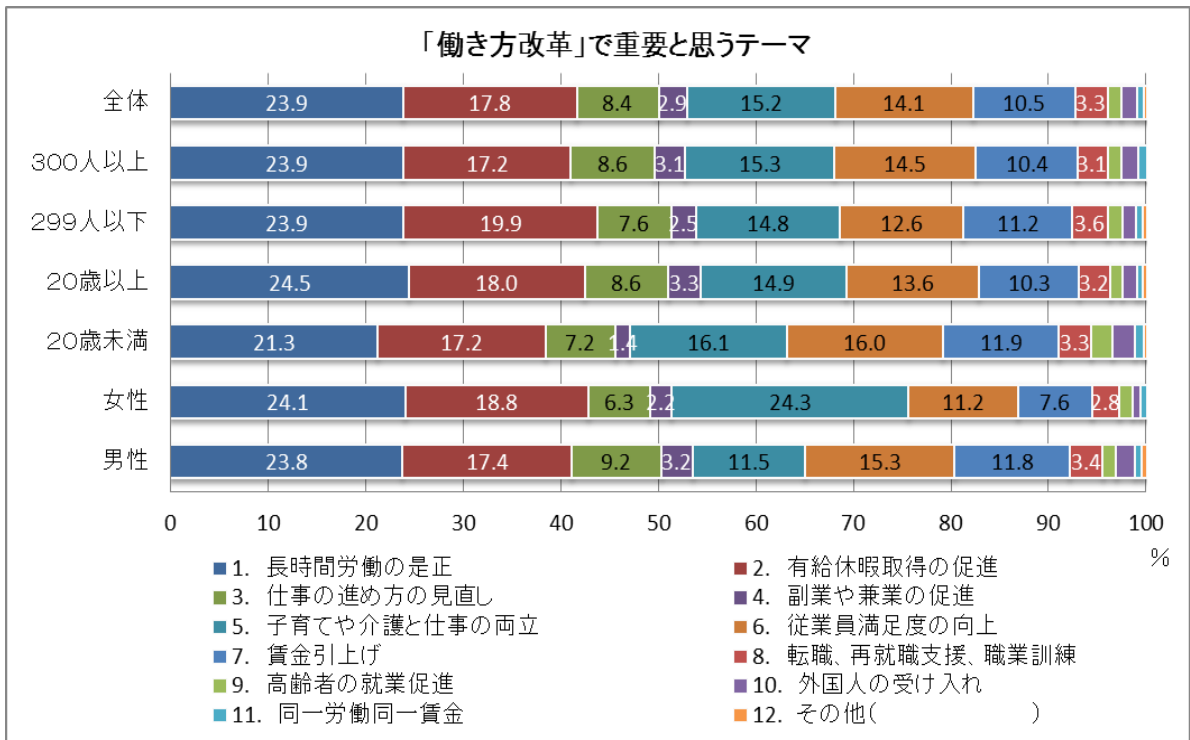




**4. 【新設質問】「働き方改革」で重要と思うテーマの1位は「長時間労働の是正」23.9%**

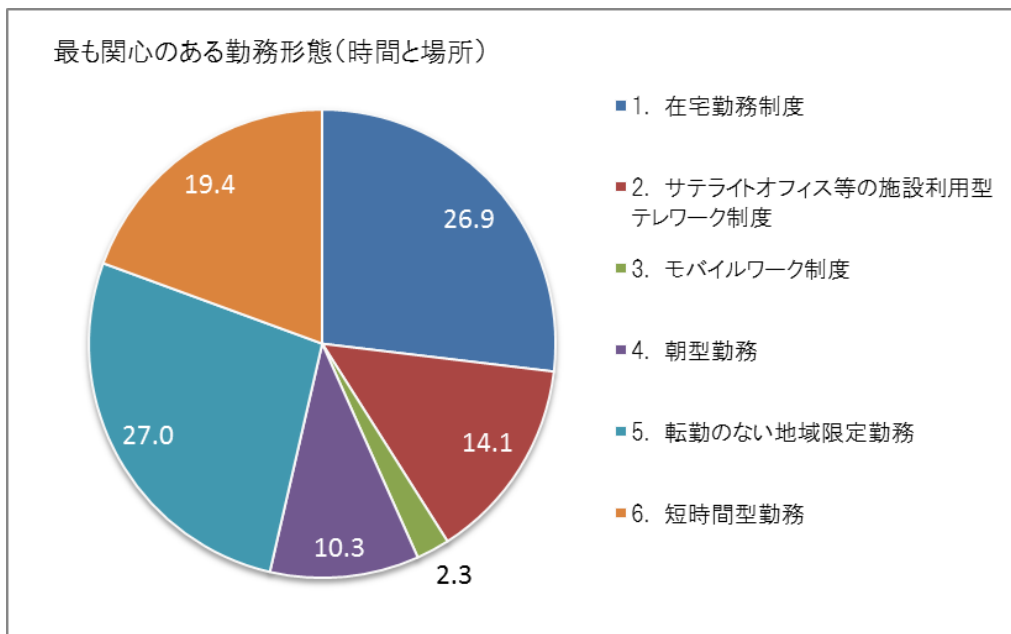
設問Q12. (a)「働き方改革」であなたが重要であると思うテーマは何か(12項目より3項目を選択)を聞いたところ、「長時間労働の是正」が23.9%で首位に。「有給休暇の取得推進」が17.8%、「子育てや介護と仕事の両立」が15.2%と続いた。「仕事の進め方の見直し」は8.4%、「副業や兼業の促進」は2.9%、「同一労働同一賃金」は0.7%と低位になった。





**5. 【新設質問】「働き方改革」で最も関心のある勤務形態は「転勤のない地域限定勤務」27.0%  
「在宅勤務制度」26.9% と両者が拮抗**

設問Q12. (b)「働き方改革」で最も関心のある勤務形態(時間と場所)は何か(6項目から1つを選択)をきいたところ、「転勤のない地域限定勤務」が27.0%で首位となった。「在宅勤務制度」が26.9%、「短時間型勤務」が19.4%と続く。



### 最も関心のある勤務形態(時間と場所)

